

第12回九州・沖縄地方産業競争力協議会 開催報告

【共同事務局】

**九州地方知事会（熊本県）
一般社団法人九州経済連合会
経済産業省九州経済産業局
内閣府沖縄総合事務局**

第12回九州・沖縄地方産業競争力協議会 開催概要

- 九州・沖縄地方産業競争力協議会では、令和5年9月7日（木）に、第12回協議会を開催。
- 「九州・沖縄地方成長産業戦略～九州・沖縄Earth戦略Ⅱ～（令和3年3月改訂）」について、全体総括及び昨年度発表していないプロジェクトを中心に12のプロジェクトについての進捗状況を報告。目標を達成したプロジェクトについては、目標を見直す等検討し、次回協議会で報告することが決定。
- また、国の地方支分部局から、九州の持続的発展に向けた国の動きについて情報提供。今後、九州が全国に模範を示せるように、一致団結して取り組んでいくことで一致。

日時

令和5年9月7日(木)14:00～16:00

場所

ホテルニューオータニ博多3階「芙蓉の間（華）」

出席者

会長：倉富 純男（九州経済連合会 会長）

委員：民間企業等経営者6名

熊本県 蒲島知事はじめ、九州・沖縄・山口
9県及び1政令市

ワザバー：地方支分部局11機関の長等

事務局：熊本県、九州経済連合会、九州経済産業局、
沖縄総合事務局

内容

■各プロジェクトの進捗状況について

■九州の持続的発展に向けた情報提供

①「新生・シリコンアイランド九州」の実現に向けて
九州経済産業局長 苗村 公嗣

②新たな九州圏広域地方計画の策定について
九州地方整備局長 森戸 義貴

③地域脱炭素の実現に向けた動き
九州地方環境事務所長 築島 明

■次回開催について



▲倉富会長



▲蒲島知事



▲苗村局長



▲森戸局長



▲築島所長



▲協議会の様子

九州・沖縄Earth戦略Ⅱ ～新たな課題解決に挑むアジアのゲートウェイ・九州～

背景

- ◇国の成長戦略は道半ば
- ◇米中覇権争いとグローバルサプライチェーンの揺らぎ
- ◇新型コロナウイルス感染症の猛威と激甚化する自然災害

九州・沖縄の現状と課題

- ◇再エネ導入、医療機器産業参入、食の輸出、インバウンドの拡大
- ◇人口減少、カーボンニュートラル等への対応

九州・沖縄の強み

- ものづくり産業の集積
- 豊かな自然
- アジアとの近接性

九州・沖縄の強みを活かす戦略分野の推進
クリーン、医療ヘルスケア、農林水産業・食品、観光

アジアのゲートウェイ化の推進

アジアへの輸出とインバウンドの拡大

新たなテーマへの挑戦

SDGs、先端技術、働き方改革、アフターコロナ

九州・沖縄の強みを活かす戦略分野

1 クリーン分野

- 【水素】再エネ由来水素利活用の技術開発や水素関連産業の参入促進
- 【地熱・温泉熱】地域と共存可能なプロジェクトの創出と海外展開
- 【海洋】専門人材の育成やサプライチェーン形成による地場企業の参入促進
- 【次世代自動車】地元企業の開発力強化と電子・電装系企業の集積
- 【省エネ】有機EL分野の共同研究開発や参入促進
- 【環境・エネルギー】環境リサイクル技術のアジア展開、課題解決の推進

3 農林水産業・食品分野

- 【食の輸出】食品製造事業者への地域商社を介した販路開拓支援
- 【スマート農林水産業】事例共有や体験機会等の提供、データ活用の推進
- 【農山漁村発イノベーション等の推進】農泊や農福連携の推進

2 医療・ヘルスケア・コスメティック分野

- 【医療・福祉機器】自治体間連携による医療機器産業への参入促進
- 【バイオ】核酸医薬やゲノム編集技術活用等による革新的医薬品の開発推進
- 【コスメティック】地産農林水産物を活かした化粧品の研究開発の推進

4 観光分野

- 【観光基盤】宿泊施設のグローバル対応促進と観光産業の人材育成
- 【誘客と観光消費】
欧米豪や中国個人客等へのプロモーション強化による誘客地域の多角化
自然や食、歴史、文化を活かした観光サービスや広域旅行商品の創出
統合型リゾート（IR）の誘致活動推進

分野を超えた横断的取組

1 SDGsの普及・実装

- ・産学官金プラットフォーム「九州SDGs経営推進フォーラム」による地域・社会課題解決に向けた企業と自治体との対話促進

2 創業・ベンチャーの創出

- ・「Fukuoka Growth Next」など地域における創業支援体制の強化
- ・九州・山口ベンチャーマーケットなど国内外とのビジネスマッチングの強化

3 先端技術やビッグデータの活用

- ・多様なステークホルダーが共創できる環境づくり
- ・衛星データや民間データも含めたビッグデータの連携・オープンデータ化

4 ダイバーシティ経営の推進

- ・男性の家事・育児の促進等、妊娠・出産・子育てをしやすい環境の整備
- ・テレワークや副業・兼業などの定着を見据えた働き方改革のさらなる推進
- ・オンラインも活用した域内就職やUIターン就職の促進

5 グローバル人材の確保・育成

- ・自治体、企業の連携による留学生の域内企業への就職、起業促進

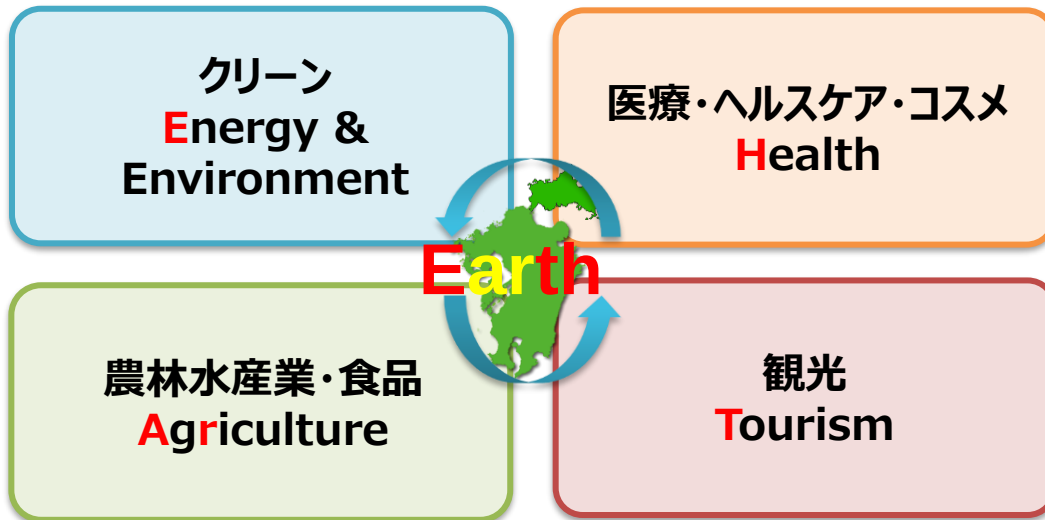
6 その他

- 【宇宙ビジネス】九州宇宙戦略推進会議による宇宙ビジネスへの挑戦
- 【その他】国際化、オープンイノベーション、インフラ強靱化、九州～沖縄連携

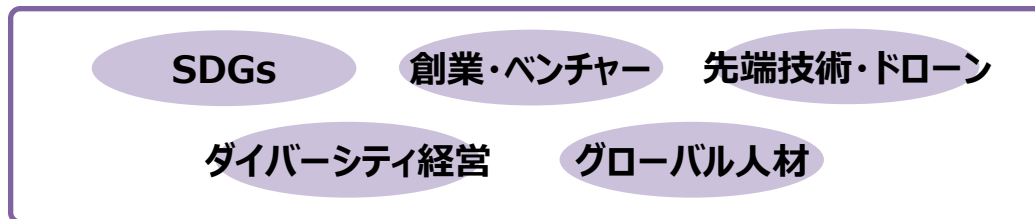
九州・沖縄Earth戦略Ⅱ

- 九州・沖縄の強みを活かす4つの戦略分野における取組を推進し、新たな課題解決に挑むアジアのゲートウェイ・九州として持続的な発展を目指す。

戦略分野



横断的取組



共通する4つの視点

SDGs

先端技術

働き方改革

アフターコロナ

九州・沖縄Earth戦略Ⅱで進める21のプロジェクト

戦略分野	クリーン	①九州水素エネルギー社会実現プロジェクト
		②地熱・温泉熱エネルギー産業拠点化推進プロジェクト
		③海洋再生可能エネルギー産業の拠点形成プロジェクト
		④北部九州自動車産業アジア先進拠点推進プロジェクト
		⑤有機光エレクトロニクス産業拠点化プロジェクト
		⑥九州・アジア環境エネルギー産業推進プロジェクト
	医療・ヘルスケア・コスメティック	⑦ヘルスケア産業振興プロジェクト
		⑧革新的医薬品等創出拠点プロジェクト
		⑨バイオ産業振興プロジェクト
		⑩唐津コスメティック構想推進プロジェクト
横断的取組	農林水産業・食品	⑪九州の食の輸出推進プロジェクト
		⑫スマート農業推進プロジェクト
		⑬スマート水産業推進プロジェクト
		⑭農山漁村発イノベーション等の推進プロジェクト
	観光	⑮九州観光戦略プロジェクト
	SDGs	⑯九州SDGs経営推進プロジェクト
	創業・ベンチャー	⑰創業・ベンチャー企業創出プロジェクト
	先端技術・ドローン	⑱先端技術活用推進プロジェクト
		⑲ドローン産業振興プロジェクト
	グローバル人材	⑳ものづくりにおける組込みソフトウェアへの軽量Ruby活用促進プロジェクト
		㉑グローバル人材の育成・活用促進プロジェクト

プロジェクトの進捗状況について

- 21のプロジェクトに対し、合計で30の目標が設定。18のプロジェクトにおいて、単年度ベースの目標を達成。九州アジア環境エネルギー産業推進プロジェクト及びバイオ産業振興プロジェクトについては、2025年の最終目標を達成。全体として、着実に実績を積み上げている。
- 北部九州自動車産業グリーン先進拠点推進プロジェクトについて、地元調達率、生産台数を設定目標としていたものを、電動化や情報通信等の次世代技術に取り組む自動車関連企業数に変更。
- 九州観光戦略プロジェクトについて、幹事団体を福岡県からプロジェクトの実施主体である九州観光機構に変更。

【今回報告の12プロジェクト】

- | | |
|---------------------------------------|-----------------------|
| ④北部九州自動車産業グリーン先進拠点推進プロジェクト | (幹事：福岡県) |
| ⑤有機光エレクトロニクス産業拠点化プロジェクト | (幹事：福岡県) |
| ⑥九州・アジア環境エネルギー産業推進プロジェクト | (幹事：九州経済産業局) |
| ⑦ヘルスケア産業振興プロジェクト | (幹事：大分県（福岡県・宮崎県）) |
| ⑨バイオ産業振興プロジェクト | (幹事：熊本県) |
| ⑩唐津コスメティック構想推進プロジェクト | (幹事：佐賀県) |
| ⑪九州の食の輸出推進プロジェクト | (幹事：九州経済連合会、九州経済産業局) |
| ⑫スマート農業推進プロジェクト | (幹事：宮崎県) |
| ⑭農山漁村発イノベーション等の推進プロジェクト | (幹事：九州農政局) |
| ⑯九州SDGs経営推進プロジェクト | (幹事：九州経済産業局) |
| ⑳ものづくりにおける組込みソフトウェアへの軽量Ruby活用促進プロジェクト | (幹事：福岡県) |
| ㉑グローバル人材の育成・活用推進プロジェクト | (幹事：九州グローバル人材活用促進協議会) |

各プロジェクトに関する委員の主な意見、コメント（1/2）

クリーン

④北部九州自動車産業グリーン先進拠点推進プロジェクト（幹事：福岡県）※KPI変更

【熊本県 蒲島知事】

◆九州はシリコンアイランドであると同時にカーアイランド。これからの自動車には半導体が不可欠で、九州では半導体関連産業の集積が加速化し、新生シリコンアイランド九州へと変貌を遂げようとしている。九州内で強みを持った産業が連携することでより一層発展することが期待できる。その結果、国の経済安全保障の一翼を担うことができるよう、引き続き、オール九州で取り組んでいきたい。

医療・ヘルスケア・コスメ

⑦ヘルスケア産業振興プロジェクト（幹事：大分県）

【東郷メディキット(株) 中島委員】

◆医療機器の製造業者・販売業者の事業者数は増えており裾野は広がっている。医療機器は商品として市場に出回るまで時間かかるので、官学の協力も得ながら、産業界も頑張っていきたい。



▲中島委員

⑫スマート農業推進プロジェクト（幹事：宮崎県）

【熊本県 蒲島知事】

◆世界的に食糧安全保障上のリスクが高まる中、デジタル技術を活用した生産の効率化は非常に重要な取り組み。全ての農作物について、網羅的に効率化を図ることは難しいと思う。本プロジェクトで高効率化が進み、稼げる農業を実現するとともに、食料安全保障にも寄与できることを期待したい。

【青紫蘇農場(株) 吉川委員】

◆生きていく上で大事なものは食料。食料の供給は九州の中で生命産業の特区構想という形で、頑張っている農家、農業法人への支援をお願いしたい。農業は利益率が少ないし、機械を買わねばならない。補助金のお願いは心苦しいが、アグリビジネスプランを提出する先に補助を出す等、農家の所得を上げるためにも提言を。



▲吉川委員

【倉富会長】

◆国の方ではなかなか動きづらいかもしれない。九経連としても声をあげていく。食料安全保障は大きな課題であり、九州をあげて取り組む必要がある。後継者問題もある、法人化を図る、一法人では動きが取れないのが現状と理解している。国の力を借りながら取り組んでいきたい。

農林水産業・食品

各プロジェクトに関する委員の主な意見、コメント（2/2）

横断的取組

②1 グローバル人材の育成・活用促進プロジェクト（幹事：福岡県）

【本多機工(株) 龍造寺委員】

◆去年は九州内で、今回は九州以外の地域の留学生にも働きかけをということで期待している。蒲島知事からも話があったとおり、半導体が九州で盛んになる分、人材不足が加速している。日本全体から優秀なグローバル人材を獲得していく必要がある。

【(株)テノ. ホールディングス 池内委員】

◆課題にあるとおり、人口減少が進む中、国内で奪いあっても仕方がない。留学生にとどまることなく、国境を越えて人材を獲得する方法はどうか。経産省が「中・東欧IT人材マッチング事業」に取り組んでいる。東欧は教育レベルは高く、労働力は安価で有効と考える。国内だけでなく、海外においても採用の仕組みを考えてはどうか。



▲龍造寺委員



▲池内委員

【青紫蘇農場(株) 吉川委員】

◆今日の会議でも良い取組が多かったが、何処の支援窓口に行ったら良いのか、きめ細かく案内していただくとオール九州で色々な産業が活発化していくと思う。

その他

国からの情報提供及び委員の主な意見、コメントなど（1/3）

「新生・シリコンアイランド九州」の実現に向けて（九州経済産業局）

【主な説明内容】

- 国の半導体戦略と九州で経済界と一緒に進めている九州半導体人材育成等コンソーシアムの取組について説明。
- 「半導体・デジタル産業戦略」に基づき、具体的プロジェクトを進めていくことが重要。九州には様々な半導体製造拠点が立地、旺盛な設備投資計画が円滑に進むように後押しすることが重要。
- コンソーシアムの主な活動は、人材育成、サプライチェーン、海外との産業交流の3本柱。
- 九州半導体人材育成等コンソーシアムでの活動を通じて、「新生・シリコンアイランド九州」の実現を目指す。

【委員からのコメント】

蒲島知事	• 今後の方向性として、九州を産業用先端半導体の世界拠点に位置付けることが提示された。この方向性に沿って、オール九州でしっかりと取り組んでいくことが国の経済安全保障の一翼を担っていく上でも大きな意味を持つと思うので、皆様と手を取り合って頑張っていければと思う。 • 新生シリコンアイランド九州というのは、九州経産局から名前の提案があったので、行政の方も合わせていきたい。 • 九州半導体人材育成等コンソーシアムの取り組みは、世界的に加速する半導体産業の成長に対応するため大変重要。この取組によって、産学官が連携して、大学のカリキュラム改変や学科の新設等をこれまでにないスピード感で進められている。熊本県としても引き続き産学官でしっかりと連携し、これからの半導体産業を担う人材の育成を着実に推進していきたい。
倉富会長	• 「新生」という言葉が非常にいい印象。元に戻るのではなくて、次のステージへ、上へということであるので、これで統一して九州として声を挙げていきたい。 • シリコンアイランドについては九州にとってチャンスが来ているので、経産局のみならず全ての地方支分部局、熊本県だけでなく九州全体、経済界も連携して一緒になって取り組んでいきたい。

国からの情報提供及び委員の主な意見、コメントなど（2/3）

新たな九州圏広域地方計画の策定について（九州地方整備局）

【主な説明内容】

- 新たな九州圏広域地方計画の策定について、全国計画と広域地方計画の変遷と概要を説明。
- 新たな九州圏広域地方計画については、2023年7月5日に「基本的な考え方」を取りまとめ。将来像として、アジアに近い地理的特徴を活かして、「アジアの成長センター『アイランド九州』」とし、目標達成には「九州はひとつ」として、九州全体が一体となって取り組む必要がある。
- 九州特有の自然と文化、九州気質の魅力がより輝く「アイランド九州」をキーワードとして、『成長エンジン「アイランド九州」』、『自立型広域連携「アイランド九州」』、『強く美しい「アイランド九州」』の3つの目標を掲げる。

【委員からのコメント】

池内委員	• 九経連の地域共創委員会の委員長を務めている。九経連では、「九州はひとつ」の理念を持って2021年に九州将来ビジョン2030の策定をした。その中で、地域共創委員会では、今九州にある課題の解決、九州の魅力の向上、稼ぐ力を作る、その結果、九州にお住まいの皆さんが幸せを感じながら活躍できる地域社会を作ることを目指して活動に取り組んでいる。 • 九州圏広域地方計画は、九経連にとっても目指す姿、方向性も同じであるので、この計画を踏まえて九経連として取り組んでいきたい。
龍造寺委員	• 九州圏広域地方計画の第1次計画において国際フロンティア九州の話があり、第2次計画で新しいゲートウェイの話があり、その次でアイランド九州があり、大賛成。 • 私としては九州出島化構想というのをやっていただきたいくらい。国全体でできないことをアジアに近い九州がチャレンジすることを実現していきたい。急速に成長を遂げている台湾を参考に。
倉富会長	• 食料安全保障の面から九州で一定程度カロリーベースで自力でできるような体制を構築したい。補助に頼るだけではない。 • シリコンアイランドの件でも、日本が団結したときの強さを感じた。農業でも同じように頑張れるのではと思う。その模範を九州が示すべき。

国からの情報提供及び委員の主な意見、コメントなど（3/3）

地域脱炭素の実現に向けた動き（九州地方環境事務所）

【主な説明内容】

- 地域脱炭素の実現に向け、環境省が進めている4つの取組について説明。
- 地域課題を解決して住民の暮らしの質の向上を実現しながら、脱炭素に向かう取組の方向性を示すものとして、「脱炭素先行地域」を、2025年度までに少なくとも100箇所選定。これまで九州、沖縄、山口地域で8地域が選定。
- 昨年設立した官民ファンド「脱炭素化支援機構」では、エネルギー転換部門にとどまらず、ものづくり、産業、サービス、運用、データ、吸収源対策など、多様な事業への投融資、リスクマネー供給がキーワード。
- 環境省では、脱炭素につながる新しい豊かな暮らしを創る国民運動「デコ活」を推進。
- 脱炭素を含め、さらに生物多様性も含めて、経済の中に取り込んでいく、「ネイチャーポジティブ経済の実現」に向けた取組も始めている。

【委員からのコメント】

龍造寺委員	• 地域脱炭素について、市町村、大学、若しくは大手企業、大手団体の取組は結構進んでいると感じている。地球温暖化による災害も増えているので、国民の意識も高まっている。一方で、中小企業がまだ乗り切れていないと感じている。 • 2030年を目標に、新しい働き方、脱炭素に繋がる製品・サービスについて、中小企業も積極的にデコ活に取り組んではどうか。
倉富会長	• (脱炭素先行地域に)手が挙がっているのが少ない気がした。脱炭素の先行地域に九州自体がなるべき。 • クリーンエネルギーの割合も九州が全国トップレベル、再生可能エネルギーも先行して進んでいる。もう少し声を上げて良いのではないか。